

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 **新**現代陶芸美術館 照明機器更新事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

現代陶芸美術館 総務部 管理調整係 電話番号：0572-28-3100 (内 103)

E-mail：c21802@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 20,716千円 (前年度予算額：0千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	20,716	0	0	0	0	0	0	0	20,716
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・開館から20年近くが経過し、この間に蛍光灯の機器にも故障が見られるようになってきた。また、LED照明の普及により、現在の蛍光灯は既に製造中止になってきている。既に品薄状態で入手も困難になっており、交換にも支障を来している。
- ・従って、光天井やウォールケース内の蛍光灯をLEDへ更新して、長寿命化を図る。LEDは作品への悪影響が少なく、かつ消費電力の軽減を図ることが可能である。また、展示作品に関する照明演出について、鑑賞者から効果的な照明をすべきとの要望をいただくことがある。
- ・作品展示に際しては、単に作品を置いて照明を当てればよいのではなく、鑑賞者が作品の魅力をより深く感じ取り、かつ作品に悪影響を与えないことが重要である。そのため作品本来が持つ色や質感を再現し、適正な照度をもたらす調光調色機能を持ったLED及び鑑賞者視線で様々なシーンを演出可能なタブレットを用いた無線制御システムを導入したい。
- ・令和2年度は照明機器更新の設計・計画を作成し、これに基づいて令和3年度及び令和4年度に照明機器更新工事を実施する。

(2) 事業内容

○照明機器更新工事

- ・令和2年度作成の照明機器更新の設計・計画に基づき、LED照明に更新し無線制御システムを導入する。
- ・対象領域は、美術館2階及び3階のギャラリー、2階エントランス等。
- ・地域産業課にて予算要求の「セラミックパークMINO照明器具更新工事」と合わせて実施。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
工事請負費	20,654	照明機器更新に係る工事費
旅費	43	事務費（地域産業課と同様の比率で算出）
消耗品費	2	同上
燃料費	6	同上
会議費	2	同上
印刷製本費	3	同上
役務費	6	同上
合計	20,716	

4 参考事項

○後年度の財政負担

令和3年度 20,716千円（工事費20,654千円、事務費62千円）

令和4年度 31,074千円（工事費30,981千円、事務費93千円）

合計 51,790千円（工事費51,635千円、事務費155千円）

※当事業は令和3年度及び令和4年度の2か年度に渡って実施。

決定額の考え方

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

令和2年度に策定する照明機器更新の設計・計画に基づき、照明機器を更新し、作品の保管・展示に適したLEDによる照明が可能な設備を導入する。

近年は、蛍光灯の機器修理をあきらめたり、蛍光灯入手の困難さに直面したりせざるを得ないこともあったが、照明機器更新を実施し、照度調節、色温度調節、紫外線・近紫外線除去、十分な演色性などを完備したLED照明機器を導入することにより、作品の保管・展示を適切かつ効果的に行うことができる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率

○指標を設定することができない場合の理由

美術館としての機能を維持するための工事を行うものであり、指標を設定するには適していない。

（前年度の取組）

- ・照明の専門家、専門業者などと意見交換を行い、助言を求める。
- ・専門業者による展示室での実験を行った。

（前年度の成果）

- ・セラミックパーク MINO 全体の照明機器更新事業の設計について、地域産業課が入札を行い、設計業者を選定した。これに美術館として作品保全に必要な機能強化事業を上乗せする方式で設計を委託して更新事業の計画を作成している。
- ・専門業者による実験や意見交換を行い、有効な照明の方式を協議しながら検討している。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	県民をはじめとする来館者にとって重要な美術館活動は展示である。照明は展示の生命であり、来館者の鑑賞環境を左右する。また、悪影響のある照明を導入すれば、作品の劣化を促進する。照度調節、色温度調節、紫外線・近紫外線除去、十分な演色性などを完備したLED照明機器は、美術館活動の展開にとって重要、不可欠である。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) △	現在は専門業者に委託し、設計・計画を策定中である。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	セラミックパーク MINO 全体の照明機器更新事業の設計について、地域産業課が入札により設計業者を選定して委託した。これに上乘せる方式で設計業者と協議を重ねて作成した計画に基づき、更新事業を進めれば効率化は図れると考えられる。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ・不安定な予算状況では、専門家・専門業者による必要な調査を行い、更新の設計・計画を作成し、工事を実施する適切な段階を踏むことが困難になり、照明機器更新を順次進めることができなくなる。そのため、継続的な予算措置の見通しを持てることが課題としてある。 ・現代陶芸美術館の事業を継続する限り、作品の魅力を引き出す鑑賞環境を演出し、作品保全に悪影響を及ぼさないLED照明を備える必要がある。 	
---	--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

館が県の重要な地場産業と連携し、現代の陶芸文化を発信していくためには、作品収集活動と展示活動を支える設備・備品を整備することが不可欠である。当館の今後の展開のためにも、本事業は継続すべき事業である。

いずれは照明機器のメンテナンス、修理等も必要であり、その方策を検討していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	